茶じゃわ～ わんたく

お茶を飲みながら、ぎのわんの歴史をのぞいてみませんか？

189

昔から続く生活の道、県道（ウフミチ）
～謝名（ジャナ）マガヤー～

みなさんは、自分の住んでいる地域の昔の地名はご存知でしょうか。

地名とは、昔からその土地に住む人々がその土地を利用するためにつけた名です。他部落へ通じる道路の呼称はその行先の部落名をとって、道の名前として呼んでいる例や、井戸や墓といった対象物をとって道の名前にしている例が多く、県道や群道などの幹線道路は、日常的には単に「ウフミチ」（現在の国道58号線となる前の道）と呼ばれていました。他にも「ナカミチ」（中道）、「フルミチ」（古い道）などあります。

▲1945（昭和20）年

▲1958（昭和33）年

▲2019（令和元）年12月

口承されて現在に至っているのですが、昨今、土地開発や区画整理などで昔の土地の形姿が変わってしまい、その地名がついた意味や由来などがわからなくなっているのが現状です。

今回は、わかっている地名の中から道について「謝名（ジャナ）マガヤー」を紹介します。謝名とは現在の場所でいうと、大謝名・真志喜・大山の地域を指します。マガヤーは方言で曲がっているという事を意味します。

なぜ、そのような名がついたのでしょうか。左上の写真は1945（昭和20）年の航空写真です。旧県道（ケンドウ）（現在の国道58号）の一部でちょうど真ん中あたりの道が「くの字」に曲がっています。上が北谷方面へつながり、下が浦添方面に伸びています。なぜ、このような形になったのか分かっていませんが、道が曲がっていたため、この地名がついたそうです。

真ん中は1958（昭和33）年の航空写真です。謝名マガヤーはすっかり形が変わり、道がまっすぐになっています。左下の写真は、謝名マガヤー南側入口付近の写真になります。

徒歩や馬車で移動していた時代は、こんなに曲がっていても特に問題なく大謝名のシンボルだったに違いありません。

【問合せ】市立博物館 ☎870-9317

ぎのわんの歴史・文化遺産を歩く

〔其の47〕

はじめに

今月は西普天間住宅地区返還跡地内で文化課が実施している埋蔵文化財調査の中で、去年7月に確認された中頭方西海道についてご報告します。

王国時代の公道

「中頭方西海道」は、首里王府からの諸令達や地方からの貢租を運ぶために各間切番所をつなぐ道として整備された宿道（しゅくみち）の一つで、当時の宜野湾地域でみると浦添間切から北谷間切へ向かうルートがあったようです。

また、市指定文化財の伊佐浜「新造佐阿天橋碑」には、中頭方西海道のルートが喜友名の山手側を通る難渋な道であったことから、伊佐の海岸側を通る平坦なルートに移動するため、1820年に架橋したことが記されています。

調査の成果

王府時代の絵図や地図などでみる山手川（喜友名）のルートが地区内を通っていたことが想定されたため、今回はその確認のために試掘調査を実施しました。調査の結果、石炭岩礫を敷き詰めて、道として整備した痕跡を発見しました。礫の大きさは数cmから20cmと大小様々でしたが、多くは5cm程度の細かい礫が使われていました。おそらく、雨などによる土砂の流出防止や地下浸透を助ける排水機能のような役割があったと思われます。今回見つかった礫敷きが王府時代に中頭方西海道として整備されたものかはわかりませんが、少なくとも戦前までは、周辺地域の方々が、日々の農作業のために田畑に向かう際の里道として利用していました。

今回調査した箇所は、中頭方西海道の想定ルートの一部でしかなく、今後も引き続き地区全体のルートを把握するために調査を行う予定です。

【問合せ】文化課 ☎893-4430

▲破線（赤）が想定ルート